

令和4年 市政ふれあい懇談会要旨

- 開催日時 令和4年11月19日（土）14時～14時45分
- 開催場所 近隣センターふさの風
- 参加者 市民10名
- 出席者 星野市長、山元企画総務部長、小林財政部長、海老原市民生活部長、山本環境経済部長、南川建設部長、森都市部長、担当課長等13名
- 懇談要旨

市 民：来年度の予算の関係の内容で、農業振興についてですが、世界的に食料危機となってきました。そういった中では、これからますます農業部門が活躍していかなければなりません。一方で農業人口が減少してきております。

また、手賀沼周辺では、一毛作です。しかし、近年では気候変動によって、二毛作も可能になってきております。田んぼでは、米の収穫後に麦など生産することは可能です。はっきり言って、作り方なのです。隣の地区などでは、麦も生産しています。ですから、我孫子は構造的に天井型の農業なのです。そして、ほとんど兼業で専門農家は少ない状況です。だから企業化して、会社法人化して、そこに資本を投資して、効率よく生産能力を上げると、さらに我孫子市の財政も良くなるのではないかと思います。手賀沼周辺の農作物について、積極的に何か良い方法はないかと陰ながら応援しているわけでございます。市におかれましても、農業活性化への良案をよろしくお願いいたします。

環境経済部長：ご質問ありがとうございます。おっしゃる通り、我孫子は田んぼなどが多くある自然環境で、兼業の農家さんが多く、専門の農家さんが少ないという現状があります。新たに農業をチャレンジする方に対して、国の方も支援金を出していきまして、そのような制度を活用している方が我孫子でもいらっしゃいます。それも、若い方が対象ということもありますので、そういった方から農業を発信していただき、我孫子でも農業をしっかりとできる環境が整っているということをアピールしていただければと思っております。私どもも、そういったことを広報等でお知らせしていきたいと思っております。

市 長：確かにご指摘があったように我孫子の面積の3分の1は農地です。その大半が手賀沼沿いの湖北から布佐へ東側に圧倒的に集中している状況です。

そういう中で、農地はそんなに減らないけれども、農家は減ってきています。そうすると、耕作できる農地が高齢化に伴って、拡大出来ないという農家が増えてきているものですから、市では新規就農者が農業に携われるようにということで、農業者一人一人とマッチングしたり、支援金を出したりしています。テストケースとして湖北の日秀地区の市民農園を新しく農業を始めようかという人については、広い畑を安価にお貸しして、農業をやれるかどうか自信がついた方には地域就農と

して農地を斡旋する形をとっています。

今回、広報でもお知らせしたように根戸新田のブルーベリー果樹園をやってみたいということで、東京から引っ越してきた家族もいらっしゃいます。それを市が間に入って、やってみようかという方に対してマッチングをしながら、日々、家族で頑張っています。それを見た人からは、私もやってみたいけど、どこへ相談したらいいかという相談もありました。

リモートワークが進むようになってきたことで、東京からちょうどよい距離が離れている我孫子で農業を行い、時々東京の勤め先に行けばいいという方に対しても、新規就農の支援を行っています。ほとんどの新規就農の方が、手賀沼周辺で農業を行ってくれていますので、そこについてもバックアップしていきたいと思っています。そのような状況の中で二毛作ができるかどうかは、ちょっと違ってきますが、確かに昔は麦を作る農家がいらっしゃいました。今は、昔と違って農家の状況も変わってきている中、耕作地が減り、餌がなくなってきたせいなのか、鳥までも少なくなってきたと感じます。どういった影響があったのかわかりませんが、農家をとりまく環境が変わってきている中で、いろんな形で農家の皆様に農地を持ち続けられるようにしないと、我孫子の3分の1の農地が荒地になってしまい、非常に見苦しいというか景観が悪い住宅地になってきます。

ですから、そういったところもしっかりと支援をし続ける必要があると思っています。また、農業者の方からはエネルギー、いわゆる電気・ガス料金が上がってきているので、経営が厳しくなってきたという声があがっており、そこは、今、農家に支援を行っています。

我孫子をご存知のとおり、ビニールハウスの農家は少ないですから補助ではなくて、飼料や肥料の高騰に対して支援をしています。

ただ、それについて要望がまだ続くようであれば、年明けにはまた支援しないといけないのかもしれない。これについては物価高騰価格に関しての支援の他にも、農業を継続していくための支援というのは、これからも市が行う必要があると思っていますので、その辺は農業振興事務所と的確なアドバイスを農家にしていただけのように、連携を深めながら対応していきたいと思っています。

ちなみに、手賀沼の干拓事業について、戦後行われた手賀沼冠水交流事業について70年ほど経ちますが、農水省が約400億をかけてこの手賀沼周辺の農地を守っていくための再整備を予定しています。ここは、柏市、我孫子市、印西市と手賀沼土地改良区と一緒にあって、手賀沼周辺の地域と農地を守る事業を国と一緒に連携して行っていく予定になっております。併せてお知らせをさせていただきます。

市 民：布佐小学校の入口道路の改修工事ですが、用地は買収済みでしょうか。それと、もし始まったとすれば、工期がどのぐらいで完成するのかお聞きしたいと思います。

建設部長：現在のところ、まだ用地買収の方は進んでおりません。先ほどの交差点部分の説明でもありましたとおり、県警本部と交差点の形状などについて内部の協議を進めている段階で、まだ形状が確定しておりません。今後、警察協議の中で、道路の成形などが決まりましたら、改めて測量しまして、どのぐらいの用地が必要か、賠償が必要なのかということの確定をして、それから用地買収を行い、完了後に整備という形になる予定です。工事期間につきましては、用地買収がございますので、今のところ申し上げづらいのですが、細かいところは道路課の方から説明をさせていただきます。

道路課長：今、部長の方から説明がありました通り、現在、警察の方と交差点の形状について協議を行って設計を確定するべく、動いているところです。

予定ですとそれが確定した後、来年度中に用地取得が出来れば、というふうに考えております。当然相手がいることですので、来年度中に用地取得ができるかわかりませんが、順調にいきましたら、我々としては令和6年度中に工事を完了させたいというところで現在動いているところです。

市長：用地買収も終わって工事に入る際は、まず、学校の方から保護者や周辺自治会の皆さんにはお知らせをさせていただきます。今、話がありましたとおり、国道356号の新木に向かう方向の南側に歩道を確保するべく、県の方でセットバックの交渉をしています。我孫子市の方は、交差点から小学校に入る道路で、センターラインが引けるように道路幅と東側に歩道を確保する用地買収を地権者と行っています。

今、課長が話したように、用地買収が早期に終われば、そのまま多くの工事に入りたいと思っています。市といたしましては、5年度6年度で用地買収と工事が終わるように、努力していきたいと考えております。